

平成22年度第1回長野県放課後子どもプラン推進委員会
意見交換の主な内容

居場所(づくり)のあり方
について

教室では効果的に学べないものは、積極的に外に出る。

農業と絡んだ事業もありうる。(食育=畑=農業)

大事なことは、子どもが参画すること。大人がすべて段取りすることは長続きしない。

学校外での活動は、楽しさが必要。

子どもがいかに主体的に係るか。

異年齢なのに、同学年のグループ、低学年のグループをつくる傾向がある。

コーディネーター：あえてグループを壊す、リーダーを作る。

仲のいい子どもを別のグループに分かれさせる。

年齢の若い時にいろいろ経験させること。

異年齢交流

}=人との交流

保護者との
関係について

親が丸投げしてしまう。 親が絡むにはどうしたらよいか。

親子が積極的に参加できる事業を企画している。

例)小布施町：月2回土曜日

年に1~2回親子が集える場をつくる。(親を教育する場にもなる。)

人材確保に
ついて

団塊の世代・・・60~65歳、地域に沢山いる。

地域子育てサポーター養成 行政の中での連携(他部局との連携)

養成しても、活躍する場がないという話を聞く。

放課後子どもプランの指導者とボランティアとのつなぎ

その他

こども省の動向により、放課後子どもプランのあり方が決まってくる。

子ども会と放課後子ども教室のやっていることは同じ。

安曇野市は、10小学校区すべてで放課後子ども教室を実施している。

(毎週水曜日、職員会で子どもが早く帰れる日に実施)

中野市は、放課後児童クラブの運営に合わせて子ども教室を実施。

まとめ

親子を巻き込む：事例を示していくこと。
指導者確保：養成してもプランをやるようとしている所に情報が届かない。ネットワーク作り、研修会、活躍したいと思っている人が活躍できる場の提供
子どもの問題：やる気になって活動するにはどうしたらよいか。
指導者の研修会等による資質向上、学校外における子どもの指導法習得

平成 22 年度放課後子どもプランの実施

長野県

事例集の作成・配布、
ホームページへの掲載
放課後子どもプラン
合同研修会の開催
実施状況、未実施状況
調査、把握

教育事務所

市町村社会教育事務
担当者会議
学社融合フォーラム
(分科会：放課後の子
どもの居場所づくり)
放課後子ども教室、児
童クラブ研修会

保健福祉事務所

放課後児童クラブ
スキルアップ等事業
(放課後児童クラブの
指導員等の専門性と
地域の子育て支援の
ための人材育成のた
めに、講義・情報交換
等を実施)

放課後子ども教室 32 市町村 65 ヶ所、放課後児童クラブ 62 市町村 307 ヶ所で実施

児童や、保護者とのコミュニケーション、地域の方々との交流が進んでいる。

子どもたちが自ら計画、企画し、成し遂げる力がついてきている。

一人遊びでなく、友達との関わりが持てるようになった。

必要に応じて、保護者会を開き、保護者の理解を得ながら進んでいる。

放課後児童クラブや学校との連携

(運営委員会への学校職員や放課後児童クラブスタッフの参加、合同の活動、放課後子ども教室から放課後児童クラブへ移動する児童の情報交換や安全確保)

1月25日研修会における情報交換会より

テーマ

普段の活動を通して考える、子どもの居場所づくりのあり方について
工夫した取組例（保護者を巻き込んだ活動、学校や地域とつながりのかつ活動など）
課題への対処（事故や怪我への対応、子どもや保護者への対応など）
長野県放課後子どもプラン推進委員会で検討してほしいこと。

< 9班：66名参加 >

<p>居場所づくりのあり方について検討</p> <p>放課後子ども教室と放課後児童クラブの違い、目的</p> <p>放課後子ども教室（教育の場） 放課後児童クラブ（児童福祉） お便り（通信）を出している。 2つの事業の違いは何か、どう実施するか。 補助金は引き続きお願いしたい。</p>	<p>自分で時間の使い方を考える、自分で計画を立てる。</p> <p>大人の感覚で捉えるのではなく、子どもの発達段階の見方で考える。 異年齢交流をする。（関わることの大切さ）</p> <p>子どもをしっかり見る、子どもの声を聞く、問題が起こる前に</p> <p>違った人、違った立場のスタッフ置く お母さんくらいの年齢の安全管理員をどう取り込めるか。</p>	<p>体づくりが基本</p> <p>思い切り体を動かして遊ぶ 子どもの主体性を尊重した遊び 雑巾がけ（使用した施設への感謝）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我をすることを意識しすぎない。 ・学校のように制約せず、思い切り体を動かす場となってほしい。 ・子どもの発想力を豊かに活かす。 ・その季節の行事 <p>低学年、高学年が一緒という難しさ</p>
<p>学校や家庭で規制されているので、放課後は安全管理をしつつ、子どもの主体的で自由な遊びを支援していく。</p> <p>リーダーを決めると主体的に活動する。</p> <p>指導員になっても、子どもへの対処など不十分なことも多いので、研修の機会を作って学んでいく。</p> <p>県全体の安全管理員等の研修会を年1回開催について</p>	<p>子どもを主体とするために、体育館の使い方など全て子どもと会議 子どもだけに自主性を押しつけてはだめ。（大人も指示待ちが多い）</p> <p>学校の先生と密に連絡を取ること で相互にメリット</p> <p>親には情報提供することで、信頼関係の形成につながる</p> <p>子ども教室と児童クラブの明確な活動の違いがないので、親が理解するのも難しい。</p>	<p>始めは子どもを見守っていればいいという感覚 学校で学べないことを地域の人から学べるという意識へ</p> <p>短時間でも、めいっぱい遊んで帰っていく子どもを安全面で配慮 児クラの預かり時間延長の要望が保護者からあるが子どもの過ごし方としてはどうか。</p> <p>子どもについての情報交換をする。 学校に児童クラブ・子ども教室への理解がほしい。</p>
<p>学童クラブの充実を図ることも大切だが、子育て土壌として、学校・家庭以外の地域で「躰」を中心に教えてくれる人との関わりも大切</p> <p>放課後子どもプランに対する親の願いは、安全のみではなく、学びや人とのつながりの場としての存在</p> <p>地域の違いの良さを活かして、地域の子どもを育てるという考え</p> <p>全県、同じ方向で統一するのではなく、地域の特色を大切にしてほしい 全県的な意見交換の場がもう少しほしい。</p>	<p>授業ではないので、子どもも開放的になり、勉強できなくとも陽の当たる場所となる。</p> <p>集団として遊べるようになり、タテのつながりが出てくる。</p> <p>年1回保護者の方を呼んで、お楽しみ会をする。</p> <p>言うことの聞かない男子に手を焼いているが、怪我のないように見守ることが一番である。</p> <p>若い人の力がほしい。</p>	<p>スタッフにとっても若返り、エネルギーをもらえる場所</p> <p>ルールはあまり細かく言わない 体験活動を中心に放課後子ども教室を実施、自発的にやらせている。</p> <p>お便りを毎日出している。</p> <p>手をつけられないような子も、2年、3年とやっているうちに、落ち着いてくる。</p> <p>人間関係でのトラブルは、厚生員との人間関係の中で、場を捉えて繰り返し指導するしかない。</p>